

明治大学外国人研究者招聘制度 報告書

<招聘教授・研究員の情報 / Guest Professor・Guest Scholar>

氏 名	陳佳儀
Name	
所属機関(派遣元)	華東師範大学 歴史学系
Affiliation (Home Organization)	
現在の職名	博士課程 大学院生
Position	
研究期間	2023年11月20日 ~ 2024年2月20日
Period of Stay	
専攻	宋代史 唐宋法律史
Field of Research	
ホスト教員氏名と所属学部研究科等	櫻井智美 (文学部)
Name of host teacher and affiliation at Meiji University	

<外国人研究者からの報告 / Foreign Researcher Report>

①研究課題 / Research Theme
宋代商業観念史
②研究概要 / Outline of Research
宋代は商業が著しく発展し、国家統治機構および社会や人々の日常生活にその影響が浸透した。そのような商業の発展は、宋代の人々の観念にも影響を与えたのだろうか。宋代の人々が商業の発展によってもたらされた新しい変化をどのように理解し、解釈したのだろうか。商業は宋代の人々の思考においてどのような位置を占めていたのであろうか。これらの問題を考察することが研究の最終目的である。 これまで、商業史、社会階層史、経済思想史、儒教思想史、制度史などの研究分野において、宋代における商業の観念・認識の問題が取り上げられてきた。その中でも、社会経済における商業の役割、商人の社会的地位、士商と農商の関係といった現象面に関する問題は明確に整理されている。しかし、宋代の民間人の商業観に関する研究は、現象面に関する研究に比べるとはなはだ不十分である。確かに、宋代の人々が商人や商業の地位をどのように認識し、義利関係や謀利行為などをどのように捉えていたか、そして商業の発展が引き起こした社会風潮の変化や引き起こした諸問題については、先行研究でも焦点が当てられてきた。ただし、これらの研究は、当時の精英的な士人階級の商業観に重点を置き、商業を包含する新思想として歓迎しているものの、社会全体でこの新思想がどの程度浸透したのかについての検証はまだなされていない。したがって、宋代社会全体における一般的な商業観を研究する必要があると考える。 そのために、宋代社会における商業観のと政府による商業経営理念について、二つの側面から、体系的かつ総合的に検討する。 ① 観念は行動の原動力であるので、観念の考察を通して、商業行動と商業政策の思想的動機を明らかにする。 ② 内部的な論理を分析し、人々の商業に対する思考パターンと傾向を説明することを試みる。 この方面で参考になる研究は、中国国内で様々な角度から行われ、重厚な研究が積み上げられている。一方で、宋代史研究のかつての中心であった日本で、20世紀に行われてきた制度史料分析や訳註などの研究成果に対しても十分に目配りし、それらの先行研究から、商業概念の分析に結びつく史料や研究視角を丁寧に拾い上げる必要があると考えて、日本での共同研究を計画した。その際、宋元時代の制度・法制史料に精通した櫻井氏と共同研究を行うことで、宋代商業概念に別角度から関わる新たな史料を発掘し、双方の意見を交換した。さらに、関東方面の多くの宋代史研究者と交流し、宋代の商業概念について意見を得た。
③招聘期間中の研究活動の実績 / The research results as Guest Professor・Guest Scholar
① 週に一二度は会合し、研究の進展と目下のについて確認した。 ② 東洋文庫・静嘉堂文庫など、宋元版を多く所蔵する図書館で史料調査を行った。 ③ 明治大学図書館を中心に、中国で入手にくい宋代史研究文献を収集した。 ④ 宋元時代の石刻史料を講読し、下級士人や軍人の経済活動に対する観念を示唆する史料を搜索した。 ⑤ 宋代の商業観念をタイトルとした報告会を行い、多方面からの意見を得た。 ⑥ 宋代史や他の時代に関するシンポジウムや研究会に参加し、日本の研究の最新状況を理解した。 ⑦ 同時期に開催されていた宋代史関係の展覧会などに足を運び、日本所蔵の宋代文物を実見し、物に対する当時の人々の感覚に思いをさせた。

